

西原町役場新庁舎完成！ 落成式典を盛大に挙



西原町役場の新庁舎が完成したことを受け、新庁舎内のさわふじ未来ホールで4月26日に「西原町新庁舎落成式典」が行われました。式典には行政関係者や建設工事に携わった関係者など、およそ450名が出席。待望の新庁舎落成を祝いました。

式典では主催者を代表して上間明町長が「新庁舎はこれまで以上に町民の安心、安全な暮らしを支える拠点となる。交流と活力を創造する施設として末永く町民に愛されるよう、親しみやすい雰囲気を大切に、さらなる住民サービスの向上に努め、知恵を結集し、夢の扉を開いていく」とあいさつしました。引き続き儀間信子議長があいさつを、崎原盛秀副町長が建設工事の経過報告を行い、川上好久沖縄県副知事、尾澤卓思沖縄総合事務局次長が祝辞を述べました。

また、設計や施工に関わった業者、建設地の地権者のみなさん、さわふじ未来ホールの命名者の津波古愛さんに対し、上間町長から感謝状が贈呈されました。



式典に先立ち、喜納昌春沖縄県議会議長、川上好久沖縄県副知事、上間明町長、尾澤卓思沖縄総合事務局次長、儀間信子議長、新里米吉県議会議員によるテープカットを行いました。



施工業者を代表して感謝状を受け取った、金秀建設(株)の呉屋守孝代表取締役社長(左)。



さわふじ未来ホールの命名者、津波古愛さん(中央)は、家族と出席して喜びを分かち合いました。

西原町役場新庁舎見学会

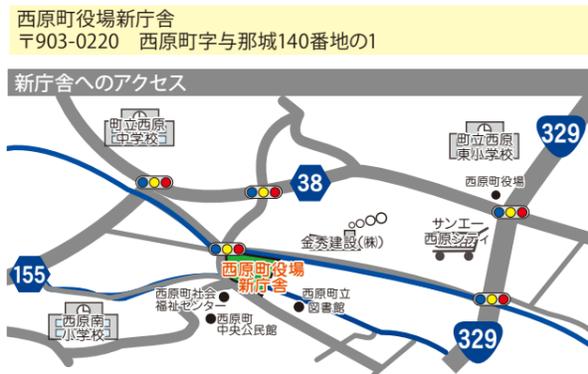
4月26日と27日の2日間の日程で、西原町役場新庁舎の見学会が行われ、一般公開されました。見学会には2日で延べ約2,100名が来場。できたばかりの役場や議会の議場、さわふじ未来ホールなどを見学しました。



町役場1階を見学する来場者

これからよろしく！西原町新庁舎開庁式

新庁舎での業務開始となった5月7日に、職員が参加して開庁式を行いました。全職員を代表して4月に新規採用された職員が決意宣言を行い、新庁舎でのますますの行政サービスの充実を誓いました。



<お詫びと訂正> 4月26日に開催した「西原町役場新庁舎落成式典」及び26日と27日に開催した「新庁舎見学会」で配布したパンフレットの18ページ下段中央の写真タイトルの「西原村役場」と本文の「村役場」の表記に誤りがありました。この当時は「村役場」ではなく「村役所」の名称でしたので、誤りをお詫び申し上げます。

西原町役場旧庁舎(字嘉手苅) 46年の歴史に幕を閉じる

昭和43年、小那覇交差点近くの字嘉手苅に西原村役所(当時)の庁舎が建設され、字与那城から移転しました。それから46年間、沖縄の祖国復帰や、村から町への移行など、さまざまな変化や時代の流れの中で、長年にわたって西原町のまちづくりの中核を担い、町の発展を支えてきました。時間の経過とともに、建物は老朽化が進行しました。さらに、まちの発展に伴って住民ニーズが多様化していくにつれ、行政サービスを提供する中核として、施設の狭隘化が大きな課題となっていました。

平成26年2月、西原町役場の新庁舎が新しく建てられ、5月に移転が完了。旧庁舎となった字嘉手苅の庁舎は、46年の長い歴史を終えました。



▲昭和49年ごろの村役場庁舎
▲庁舎の玄関前には噴水があり、住民の憩いの場となっていました。



▲西原町役場旧庁舎(本庁舎)



▲福祉部のあった第5庁舎



▲昭和49年ごろの庁舎内(左)と現在の旧庁舎内(右)。住民に行政サービスを提供する庁舎も大きく変化しました。



▲西原町教育委員会庁舎



昭和46年に、津花波から小那覇向けに撮られた写真です。西原村役所や製糖工場が確認できます。当時の説明では「農耕地の西原平野が一目でわかる場所」に建てられた先進的な建築物でした。

庁舎にありがとう！西原町役場閉庁式



新川崔吉元村長

西原町役場旧庁舎の最後の業務日となった5月2日に、玄関前広場で閉庁式を行いました。式には、旧庁舎が建てられた際に村長として庁舎建設に尽力した新川崔吉さんが出席しました。新川さんは「場所を決めるのも資金繰りも大変だった。農協、郵便局が集まる便利な場所ということでここに建てた」と、当時の思い出を振り返り、「46年の長い間、歴代の村長、町長の尽力で、すばらしい西原町が築き上げられた。長い間で苦勞さん、ありがとう」と感謝を述べました。